要注意！水稲の紋枯症状～発生の実態と新しい防除対策～

概　要 Abstract

近年発生が目立つ水稲の紋枯症状について、全道の発生状況を明らかにして、防除対策を示しました。古くから重要病害とされる紋枯病に加えて、紋枯病によく似た赤色菌核病に対しても防除が必要なため、それぞれの病害に対応した防除手段の効果を確認しています。

成　果 Results

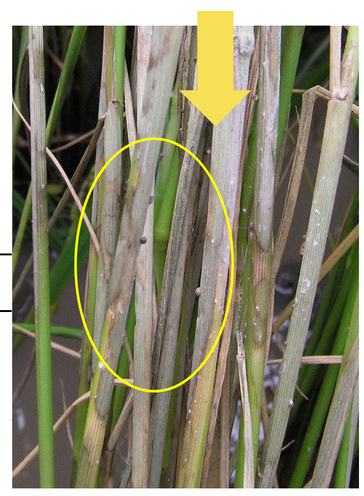
1)発生実態

道南・道央で紋枯病が発生、赤色菌核病が広く分布し、褐色菌核病が混発していました。疑似紋枯症でも、紋枯病の要防除水準（発病度40）を超えることがありました。

振興局	調査圃場数	発病度別圃場数			分離菌種別圃場数					
		発病度別　圃場数			紋枯病菌	赤色菌核病菌	褐色菌核病菌	うち複数菌種分離b)		
		無～少 (0-20)	中 (21-40)	多～ (41-)				(紋+褐)	(赤+褐)	(紋+赤+褐)
渡島	11	6	4	1	8	3	7	3	1	2
檜山	10	9	1	0	1	6	5	0	1	0
空知	29	6	16	7	4	13	24	2	12	0
石狩	7	0	3	4	7	0	2	2	0	0
留萌	2	0	2	0	0	1	1	0	1	0
後志	3	0	2	1	2	0	2	1	0	0
胆振	6	5	1	0	0	6	6	0	6	0
日高	8	6	2	0	0	11	14	0	6	0
計	76									

a)1圃場から複数菌種分離されることがあるため、分離圃場数の合計と調査圃場数は一致しない
b)複数菌種分離の括弧内は、紋：紋枯病菌、褐：褐色菌核病菌、赤：赤色菌核病菌

初期の紋枯症状（写真は赤色菌核病）



紋枯病

赤色菌核病

2）品種間差

「きたくりん」、「きらら397」、「ななつぼし」の3品種では　紋枯病、赤色菌核病とも病気のかかりやすさに差はありませんでした。

3)品質・収量に対する病害の影響

紋枯病	収量が減る（精玄米重・千粒重）	屑粒・未熟粒が増える
赤色菌核病	収量が減る（精玄米重）	屑粒・年によっては未熟粒が増える

4）効果の高い茎葉散布の方法と地上散布・無人ヘリ散布の効果

効果の高い散布時期は年によって変動するので2回散布で効果が高くなります。

紋枯病	方法：**無人ヘリも地上散布と同等** （適期の1回散布で防除価89） 薬剤：ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ・ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ水和剤F （2回散布で防除価99） ﾌﾙﾄﾗﾆﾙ水和剤F（2回散布で防除価90） 効果の高い散布時期：出穂20日前＋出穂期
赤色菌核病	薬剤：効果の高い登録薬剤なし 時期：散布適期は出穂期前後

5）育苗箱施用剤と水面施用剤が有効

対象病害	育苗箱施用	水面施用
紋枯病	いずれも安定した効果（防除価63～96）	効果高い ﾌﾗﾒﾄﾋﾟﾙ粒剤 （防除価93～100）
赤色菌核病		効果やや低い～高い ﾌﾗﾒﾄﾋﾟﾙ粒剤（防除価59～93）

5）防除対策のまとめ

前年の成熟期に防除要否を判断

調査
10株×5ヶ所
（圃場の縁～内部）
判定
成熟期の発病度４０
（＝病斑高率35%）

翌年も同程度発生する可能性

成熟期に止葉葉鞘まで紋枯症状が散見される程度

防除対策の選択（AまたはB）

A　紋枯病・赤色菌核病の両方に有効
育苗箱施用剤または水面施用剤

B　紋枯病には以下も有効
茎葉散布（無人ヘリまたは地上散布）
薬剤：ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ・ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ水和剤F
ﾌﾙﾄﾗﾆﾙ水和剤F
時期：出穂20日前＋出穂期

普　及 Dissemination

（１）水稲の紋枯病および赤色菌核病の防除対策として活用する。
（２）防除対象病害は地域での発生状況や本成果の発生実態調査等を参考に判断する。
（３）QoI剤（ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ等）はいもち病の耐性菌出現リスクが高いため使用は年1回とする。

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 クリーン病害虫グループ
０１２３－８９－２２９１
central-agri@hro.or.jp